川辺町上山田太鼓踊

【所　在　地】南九州市川辺町上山田（上山田太鼓踊保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 36 年 12 月 20 日

古くから竹屋神社の例祭（10 月 19 日）に奉納されていた踊りである。現在は４年に一度奉納されている。伝承によると，島津義弘の文禄・慶長の役出陣の送迎に踊られたもので, 出陣と凱旋の踊りがあって, この上山田のものは出陣の時の踊りであるとされている。

踊り子は，ワラ振り，中入り，ワッコの３者からなる。ワラ振りは師匠格の者がなり，浴衣にスゲ笠をつけ，ワラシベを持ち，先頭に立って先導役をつとめる。中入りは小二才が女装をして花笠をかぶり，鉦を持つ。カシタガネ（頭鉦）は踊りの指揮者となる。ワッコは浴衣姿で鉢巻をし，太鼓を胸にさげたニセ（青年）達の役である。

踊りは，まず「カンカンコン」という踊り，次に中入りだけの踊りが順次出て６番まで踊り，そのあと「タニヤマカラサッ」という踊り 12 番があって終る。中入りの踊りは優雅で，全体的に節度のあるよい踊りである。この踊りの特色はあでやかな姿で優雅に踊る中入りと，はれやかに活発に踊るワラ振り，ワッコの踊りの対比の妙にある。ワラ振りは新しいワラでつくったワラシベを持ち幣帛などは持たない。